

「新型コロナウイルスとの闘い、 在外の学校現場から」

イギリス 立教英国学院 校長 岡野 透

目次

- ① 学校の規模や子どもたちの実態
- ② 現地の新型コロナウイルス事情
- ③ 新型コロナウイルスの対策を講じなければいけなくなった経緯
- ④ 実際の取り組み
- ⑤ 苦勞した（している）こと
- ⑥ 喜びを感じた（感じている）こと
- ⑦ 今後への課題

① 学校の規模や子どもたちの実態

- 英国ウエストサセックス州 全寮制
- 2020年4月在籍：192名
 - 小学部5年6年：12名
 - 中学部：40名
 - 高等部：140名
- 生徒保護者在住国は英国のみでなく、日本、ドイツ、フランス、イタリア、シンガポール、アイルランド、スペイン、オランダ、チェコ、ハンガリー、スウェーデン、ロシア、イスラエル、アラブ首長国連邦、エジプト、ケニア、中国、ベトナム、アメリカ20カ国におよぶ。

② 現地の新型コロナウイルス事情

- 3月23日より、英国ではロックダウンが始まり、10週間続いた。
5月24日に段階的制限解除の政府声明があり、
6月1日からは英国小学校一部の学年において学校が再開される予定。
しかしながら、5月31日現在までに、確認された感染者は27万人、
亡くなられた方は3万8千人におよび新型コロナウイルスが英国社会に
与える影響は計り知れない。

③ 新型コロナウイルスの対策を講じなければ いけなくなった経緯

- 2020年3学期までは本校は無事に一人の感染者もなく、生徒児童を保護者のもとに帰すことができた。日本でも感染が始まりだした1月からは、本校でも外出を控え、生徒には、手洗いの励行、規則正しい生活、及び食生活をするように勧めてきた。
3月7日に卒業式を行う予定であったが、受験で日本に帰国していた高校3年生、保護者の参加は感染予防のために、参加を控えていただくという学校としては極めて残念な式となった。卒業生を皆で送りたいという気持ちから、卒業式の様子はSNSを使ったライブ中継送信を行った。
- 3月16日から英国政府声明により、学校は一斉に休校となり、5月31日現在もまだ、学校はクロズされた状態にある。
6月1日から英国小学校の一部学年で学校再開は予定されているが、本校のような全寮制の学校ではまだ再開の見込みは立っていない。

④ 実際の取り組み

- 学校がクローズされている状態であるので、2020年3月に4月からの学校再開の見込みは立たないことから、直ちにオンライン授業への移行を決定し、4月からオンライン授業の開始している。卒業式もオンライン卒業式を行った経験があるので、4月19日にオンライン入学式を行い、授業を開始している。
- オンライン授業は2つの方法で、一つはZoomを使用したインタラクティブな授業を、もう一つは自学自習ができるように予め録画された授業、教材を使ったオンライン学習からなっている。
- 60名の新生を迎えているが、名前、顔させ一致しない中で、時差の関係で1日3コマ程度のインタラクティブの授業ではあるが、生徒の表情を確認しながらの授業の重要性を感じている。

- 授業のみでなく、Zoomを使いながら、HRの時間を取り、生徒の生活の様子、健康状態、精神的な状況も確認しながら行っている。保健、体育、家庭科等の授業もオンライン授業の中に組み込まれていて、いろいろな面で精神的サポートが受けられるように工夫している。また、HRでは、保健室スタッフ、チャプレン（学校付き牧師）も交代で各クラスHRに出席して担任、生徒への精神的サポートも行っている。
- 保護者面談、新入生面談、生徒面談、進路指導もこのZoomを使用して行っている。

⑤ 苦労した（している）こと

- 生徒保護者在籍国が20カ国近いので、時差の関係もあり、連絡を取ることに苦労を感じている。
多くの生徒は日本に滞在しているが、時差8時間の問題は大きく、インタラクティブ授業、HR、面談等に使うことができる時間は午前中、3時間程度となっている。
- 画面を通しての授業にストレスを感じている生徒も多く、今後オンライン授業を継続していくにあたっては、生徒への精神的サポートは必須であると思われる。
- 60名近い新生とはまだ、面識もなく、担任、教科担当が授業を進めていく上で、お互いの信頼関係を築いていくことに大きな問題を感じている。

⑥ 喜びを感じた（感じている）こと

- 4月からの態勢に対して、特にオンライン授業への移行については、多くの教職員の協力があって、極めてスムーズに進むことが出来た点に喜びを感じているが、この体制に生徒の協力があったことも忘れてはならない。生徒会を中心として、入学式さえままならない状況で、球技大会、Japanese Eveningといった生徒主体の活動が次々となくなる中で、生徒は今出来ないことに落胆するのではなく、いまできることに挑戦をしてくれる生徒の姿には大きな喜びを感じている。特に生徒会が中心となって、全校自己紹介企画を進行してくれたり、オンラインコンサートを企画したり、制限がある中でも、自分たちができることに果敢に挑戦をする生徒の姿に、大きな拍手を送りたい。
- 学期初めに生徒が書いてくれた作文には、自分たちが置かれた状況に悲しむ姿はなく、むしろ、この困難な状況の中で自分たちの命をかけて、人々のために仕事をしている医療従事者に対する関する感謝を表明する多くの生徒にこれからの世界の希望を感じている。

⑦ 今後への課題

- ポストコロナウイルス後の学校生活は今までとは同じようにならないことを考え、新しい学校生活とは何か、教育とは何かを最初から構築することが大切と考えている。

現在このコロナウイルスによって問題となることは、コロナウイルスがあって初めて問題となることではなく、我々が近い将来直面しなくてはいけない問題であると考えている。オンライン授業を開始した状況で、今後将来に必要な教育とは何かを考え、ICTの技術をどのように教育の中に取り込み、教師自身が何を生徒に語りかけていくのかが大切であると考えている。

- 現実的には、英国政府が進めているSocial Distance 2メートルをいかに学校の教室の中で、そして寮生活の中で実践していくのかが9月から始まる学校生活に備えての課題である。